

「かがやく」評価マップ

領域	観点	低学年	中学年	高学年
話すこと	1. 基本的な話す技能	はっきりとした声で話す 聞き手を見て話す 簡単な言葉で自分の考えを伝える	適切な声の大きさと速さで話す 相手や場面に応じた言葉遣いで話す 話の順序を考えて話す	声の抑揚や間の取り方を工夫して話す 目的や相手に応じた話し方を選択する 論理的な構成で話をまとめる
	2. 内容の構成と展開	経験したことを時間順に話す 好きなものについて理由を添えて話す 簡単な説明をする	話の中心を明確にして話す 理由や具体例を挙げて説明する 聞き手の反応を見ながら話を進める	目的に応じて情報を選択し、効果的に配置する 複数の視点から考えを述べる 聞き手の理解や関心に応じて話の展開を工夫する
	3. 表現の工夫	身振り手振りを交えて話す 実物や絵を見せながら話す 簡単な比喩を使って表現する	具体例や数字を用いてわかりやすく説明する 声の調子を変えて強調したい部分を示す 適切な接続語を使って話をつなげる	比喩やたとえを効果的に用いる 統計やデータを活用して説得力のある話をする 修辞技法を意識的に使用して印象的な話をする
	4. 聞き手意識と対話力	聞き手の顔を見て話す 質問されたことに答える 友達の話を受けて、関連する話をする	聞き手の反応を確認しながら話す 質問に対して詳しく説明する 相手の意見を聞いて、自分の考えを述べる	聞き手の知識や関心を考慮して話の内容や方法を調整する 質問の意図を理解し、的確に回答する 建設的な対話を進行させる
	5. 自己評価と改善	話せたことを喜び、できなかったことを素直に伝える 教師や友達のアドバイスを聞いて直す 次はこうしたいという目標を持つ	自分の話し方の良かった点や改善点を見つける 録音や録画を見て自分の話し方を振り返る 場面や相手に応じた話し方の違いを意識する	設定した目的に沿って話せたか評価する 聞き手からのフィードバックを分析し、改善点を見出す 多様な場面での効果的な話し方の戦略を立てる

1. 基本的な発話スキルから高度な言語運用能力への発展:
低学年での単純な自己表現から、高学年では目的や場面に応じた効果的なスピーチや対話の展開へと進化しています。
2. 個人的経験の共有から社会的課題の議論への成長:
身近な出来事や好みの表現から、社会的な問題に対する見解や分析の発表へと広がりを見せています。
3. 直感的な表現から論理的な構成への移行:
断片的な思いの表出から、論理的に構成された説得力のある主張の展開へと発展しています。
4. 単一の視点からの発話から多角的な視点の統合への進化:
自己中心的な発言から、多様な観点を考慮した包括的な意見表明へと発展しています。
5. 教師主導の発話指導から自律的な話し方の工夫への移行:
指示に従った発話から、自己評価と改善を通じて効果的な話し方を模索する段階へと進んでいます。
6. 言語表現技法の段階的な向上:
簡単な言い回しの使用から、比喩や修辞法を効果的に活用する高度な表現力の獲得へと発展しています。
7. 非言語コミュニケーションスキルの深化:
基本的な身振り手振りの使用から、場面や内容に応じた効果的な非言語表現の活用へと進化しています。
8. 聞き手意識と対話力の向上:
一方的な発話から、聞き手の反応を見ながら柔軟に対応し、建設的な対話を展開する能力へと発展しています。
9. メタ認知能力の育成:
話すプロセスへの意識が高まり、自己の話し方を客観的に評価し、改善する能力が育成されています。

これらの傾向は、児童が段階的に話す力を身につけ、同時に思考力、表現力、対人関係能力を育成していく過程を示しています。低学年では基本的なコミュニケーションスキルの習得に重点が置かれ、中学年では内容の充実と表現の工夫が進み、高学年になると社会的文脈を考慮した高度な言語運用能力の獲得が目指されています。

最終的には、社会で必要とされる効果的なコミュニケーション能力、プレゼンテーション力、そして建設的な対話を通じた問題解決能力の基礎を形成することを目指しています。この過程を通じて、児童は自己表現力を高めるとともに、他者との相互理解を深め、協働的な関係を構築する力を養っています。

「かがやく」評価マップ

領域	観点	低学年	中学年	高学年
聞くこと	基本的な聞く姿勢	話し手を見て聞く 静かに座って聞く 最後まで聞く	話し手を見て集中して聞く 適切な相づちを打つ 聞く目的を意識する	話し手の表情やジェスチャーにも注目して聞く 積極的に聞く姿勢を示す(うなずき、メモを取るなど) 聞く目的に応じて聞き方を変える
	内容の理解	話の大まかな内容を理解する 簡単な指示を聞き取り、行動する 好きなものや興味のあることについて聞き取る	話の主題を理解する 重要なポイントを聞き取る 順序や因果関係を理解しながら聞く	話の論理構造を把握する 明示的な情報と暗示的な情報を区別して聞き取る 話し手の意図や背景を考えながら聞く
	批判的思考と評価	聞いた内容が分かったかどうかを判断する 面白かったことや不思議に思ったことを見つける	聞いた内容の良い点や工夫を見つける 自分の考えと比較しながら聞く 疑問点や不明点を認識する	話の信頼性や妥当性を評価する 多角的な視点から内容を分析する 聞いた内容の強みと弱みを考える
	共感的理解	話し手の気持ちを想像する 友達の好きなものや大切なものを理解しようとする	話し手の立場に立って考える 話し手の思いや考えを感じ取る 発表者の工夫や努力を認識する	話し手の価値観や背景を考慮しながら聞く 言葉の裏にある感情や意図を読み取る 多様な意見や考えを尊重しながら聞く
	情報の活用と統合	聞いた内容を簡単に絵や言葉でまとめる 聞いた内容について感想を持つ	聞いた内容をメモにまとめる 聞いた情報を自分の経験や知識と結びつける 聞いた内容をもとに新しい疑問を持つ	複数の情報源からの情報を統合する 聞いた内容を批判的に検討し、自分の意見を形成する 聞いた内容を他の場面や状況に応用する
	聞く力の自己評価と改善	聞いたことを喜び、できなかったことを素直に伝える 聞く際のルールを守ろうとする	自分の聞く態度を振り返る 聞き方の良かった点や改善点を見つける 聞く力を向上させるための目標を立てる	場面や相手に応じた適切な聞き方を選択する 自分の聞く力の強みと弱みを分析する 効果的な聞き方の戦略を開発し、実践する

- 1.受動的な聴取から能動的な聴取への発展:
低学年での単純な内容理解から、高学年では目的に応じた戦略的な聴取へと進化しています。
- 2.表面的な理解から深層的な解釈への成長:
話の大まかな内容把握から、話者の意図や背景を考慮した深い理解へと広がりを見せています。
- 3.個別の情報聴取から情報の統合と分析への移行:
単一の話題の理解から、複数の情報源からの情報を関連づけ、批判的に分析する能力へと発展しています。
- 4.教師主導の聴取指導から自律的な聴取スキルの獲得へ:
指示に従った聴取から、自己評価と改善を通じて聴取スキルを向上させる段階へと進んでいます。
- 5.言語情報の理解からノンバーバル情報の解釈への拡大:
言葉の内容理解だけでなく、話者の表情やジェスチャーなどの非言語情報も含めた総合的な理解へと発展しています。
- 6.共感的理解力の段階的な向上:
単純な感情理解から、多様な価値観や背景を考慮した深い共感的理解へと進化しています。
- 7.批判的思考力の育成:
話の内容をそのまま受け入れる段階から、信頼性や妥当性を評価し、多角的に分析する能力へと発展しています。
- 8.メタ認知能力の深化:
聴取プロセスへの意識が高まり、自己の聴取スキルを客観的に評価し、改善する能力が育成されています。
- 9.聴取内容の活用力の向上:
聞いた内容の単純な再生から、新たな状況への応用や創造的な問題解決への活用へと発展しています。

これらの傾向は、児童が段階的に聞く力を身につけ、同時に思考力、共感力、情報処理能力を育成していく過程を示しています。最終的には、社会で必要とされる効果的なコミュニケーション能力と批判的思考力の基礎を形成することを目指しています。

「かがやく」評価マップ

領域	観点	低学年	中学年	高学年
聞き合うこと	基本的な話し合いの姿勢	順番に発言する 相手の話を最後まで聞く 自分の考えを簡単な言葉で伝える	話し合いの目的を意識する 相手の意見を尊重しながら自分の意見を述べる 適切な声の大きさや速さで話す	話し合いの目的に沿って発言する 他者の意見を踏まえて自分の考えを述べる 建設的な態度で話し合いに参加する
	質問する力	分からないこと(5W1H)を見つけて質問する 興味を持ったことについて質問する 単純な確認の質問をする	自分の経験や知識と比べて質問する 発表の中心につなげて質問する 資料や実物に着目して質問する	発表の論理性や一貫性について質問する 新たな視点や可能性を探る質問をする 相手の考えをより深く引き出す質問をする
	質問に答える力	自分の知識や思いをもとに簡単に答える 分からないことは素直に伝える 相手の質問の意図を確認しながら答える	理由や根拠を示して答える より詳しく説明することができる 予想を交えて答えることができる	根拠を明確に示して論理的に答える 自分の知識を総動員して包括的に答える 質問をきっかけに新たな考えを生み出す
	意見の交換と調整	自分の意見を簡単に述べる 友達の意見を聞いて、同じか違うかを言う 共通点を見つける	自分の意見の理由を説明する 友達の意見と自分の意見を比較する 異なる意見があることを理解する	多様な意見を整理し、関連づける 意見の違いの原因を考える 異なる意見を調整し、合意形成を図る
	話し合いの展開と深化	話題に沿って話し合いを続ける 友達の発言を受けて、関連する発言をする 簡単なグループでの話し合いに参加する	話し合いの流れを意識して発言する 友達の意見に付け加えたり、反対意見を述べたりする グループでの話し合いで役割を果たす	話し合いの展開を予測しながら発言する 議論を建設的な方向に導く 多様な意見を統合して新たな考えを生み出す
	話し合いのふりかえりと改善	話し合いで分かったことを簡単に言う 楽しかったことや難しかったことを伝える	話し合いの成果と課題を挙げる 自分の発言や態度を振り返る 次の話し合いへの改善点を考える	話し合いのプロセスと結果を客観的に評価する 個人とグループの成長を分析する 効果的な話し合いの方法を提案する

1. 個別の発言から協調的な対話への発展:
低学年での単純な意見表明から、高学年では他者の意見を踏まえた建設的な対話へと進化しています。
2. 表面的な意見交換から深い議論への成長:
簡単な感想の共有から、論理的思考や批判的分析を伴う深い議論へと広がりを見せています。
3. 教師主導の話し合いから自律的な対話の運営への移行:
教師の指示に従った話し合いから、児童自身が主体的に対話を展開し、調整する能力へと発展しています。
4. 個人的な関心事から社会的な問題への視野の拡大:
身近な話題についての対話から、社会的な課題や抽象的な概念についての討論へと発展しています。
5. 単純な質問から高次の思考を促す質問への進化:
事実確認の質問から、相手の思考を深め、新たな視点を生み出す質問力へと発展しています。
6. 感情的な応答から論理的な応答への成長:
感情や直感に基づく応答から、根拠を明確にした論理的な応答能力へと進化しています。
7. グループダイナミクスへの理解と活用への深化:
単純な役割分担から、グループ内の多様性を活かし、協働的に問題解決を図る能力へと発展しています。
8. メタ認知能力の向上:
話し合いのプロセスへの意識が高まり、対話の質を評価し、改善する能力が育成されています。
9. 合意形成とリーダーシップスキルの発達:
単純な多数決から、多様な意見を調整し、建設的な合意を形成する能力へと発展しています。

これらの傾向は、児童が段階的に話し合う力を身につけ、同時に思考力、協調性、問題解決能力を育成していく過程を示しています。最終的には、社会で必要とされる効果的なコミュニケーション能力、リーダーシップ、そして民主的な意思決定プロセスへの参加能力の基礎を形成することを目指しています。

「かがやく」評価マップ

領域	観点	低学年	中学年	高学年
書くこと 資料作成	1. 資料の基本的な作成スキル	伝えたいことを絵や簡単な文字で表現する 大きな紙やカードに内容をまとめる 色鉛筆やマーカーを使って強調する	模造紙やスライドの文字の大きさや量、色を変えて表す 見出しや小見出しを使って内容を整理する 簡単な箇条書きやナンバリングを使用する	パワーポイントなどのデジタルツールを効果的に使用する 文字の色やフォント、アニメーションを適切に使い分ける 情報を論理的に配置し、視覚的な流れを作る
	2. 具体物・視覚資料の活用	実物や写真を使って説明する 簡単な絵や図を描いて表現する	具体物や写真、動画を効果的に提示する 写真や動画を適切なタイミングで使用する 簡単な表やグラフを作成して使用する	複雑な図表やグラフを作成し、説明に活用する 模型や実験器具を用いてデモンストレーションを行う 多様な視覚資料（地図、年表、ダイアグラムなど）を適切に選択し活用する
	3. 時間管理と構成	始め・中・終わりの基本的な構成を意識する 簡単な発表の流れを考える	持ち時間に合わせて内容を調整する 重要なポイントに時間配分を考慮する 序論・本論・結論の基本構成を意識する	複雑な内容を論理的に構成する 時間配分を細かく計画し、練習する 聴衆の反応を予測して、柔軟な時間調整を考える
	4. 自分らしさの表現	好きなものや得意なことを題材に選ぶ 自分の経験や感想を素直に表現する	自分の興味や関心から題材を深く掘り下げる オリジナルのアイデアや工夫を取り入れる 自分の考えや意見を明確に示す	独自の視点や問題意識を持って題材に取り組む 自分の強みを生かした表現方法を選択する 個性的な表現を取り入れつつ、客観性も保つ
	5. 聞き手意識	聞き手の顔を見て話すことを意識する 分かりやすい言葉を選んで使う	聞き手の興味を引く工夫をする（クイズ、実演など） 聞き手の理解度を確認しながら進める 質問を予測して準備する	聞き手の背景知識を考慮して説明の詳しさを調整する 聞き手を巻き込む双方向的な発表を計画する 専門用語の使用と説明のバランスを考える
	6. 情報の収集と整理	身近な人への簡単なインタビューを行う 図書館で関連する本を探す	複数の情報源（本、インターネット、インタビュー）を使う 集めた情報を項目ごとに分類する 簡単な引用の仕方学ぶ	多様な情報源を批判的に評価し、選択する 収集した情報を比較・分析し、自分の考えを形成する 適切な引用と参考文献リストの作成を行う

1. 基本的な表現方法から高度な視覚的コミュニケーションへの発展:

低学年では絵や簡単な文字による表現から始まり、高学年ではデジタルツールを活用した複雑な図表やアニメーションの使用へと進化しています。

2. 具体物の提示から抽象的な概念の視覚化への移行:

低学年で実物や半具体物を用いる段階から、高学年では複雑な概念や関係性を図表やグラフで表現する能力へと発展しています。

3. 個人的な興味から社会的な文脈を考慮した資料作成への成長:

自分の好きなものや得意なことを題材にする段階から、学級の話題や社会的な問題を扱う資料作成へと広がりを見せています。

4. 単一の情報源から多様な情報の統合への進化:

低学年での単純な情報の記録から、高学年では複数の情報源からデータを収集し、批判的に分析して統合する能力へと発展しています。

5. 教師主導の資料作成から自律的な企画・制作への移行:

初期段階では教師の指導に基づいて資料を作成しますが、学年が上がるにつれて、自ら目的を設定し、効果的な資料を企画・制作する力が育成されています。

6. 時間管理と構成力の向上:

単純な資料作成から、発表時間を考慮した効果的な資料構成や、聴衆の理解を促進するための戦略的な情報提示へと発展しています。

7. デジタルリテラシーの段階的な向上:

手書きや簡単な道具の使用から始まり、高学年ではデジタルプレゼンテーションツールの効果的な活用へと進化しています。

8. 自己表現力と創造性の深化:

初期の単純な自己表現から、個性的で創造的な資料作成へと発展し、自分らしさを効果的に表現する能力が育成されています。

9. 聴衆意識の向上:

自己中心的な資料作成から、聴衆の理解や反応を考慮した効果的なコミュニケーションツールとしての資料作成へと発展しています。

これらの傾向は、児童が段階的に資料作成スキルを身につけ、同時に思考力、表現力、情報活用能力を育成していく過程を示しています。最終的には、社会で必要とされる効果的なコミュニケーション能力と創造的な問題解決能力の基礎を形成することを目指しています。